

令和7年度 第1回生駒市行政改革推進委員会 会議録

開催日時 令和7年4月30日（木） 午前9時30分～午前12時08分

開催場所 コミュニティセンター203・204 会議室

出席者

（委員） 森委員長、松岡副委員、林委員、松山委員、中田委員、中西委員

（事務局） 井上経営企画部長、牧井企画政策課長、粉家企画政策課主幹

白川企画政策課企画係長、北野企画政策課行政経営係長

竹井企画政策課行政経営係係員、北廣企画政策課行政経営係係員

（担当課） 井上施設マネジメント課長、今里施設マネジメント課課長

明石施設マネジメント課ファシリティマネジメント推進係長

（傍聴者） 2名

欠席者

清水委員、森岡委員

1 開 会

（事務局） 【挨拶、事務局紹介】

2 案件

（1）公共施設等総合管理計画等の改定について

（担当課） 【資料1説明 行政改革推進委員会で検討するスケジュール期間の変更報告】

（委員） いつごろまでに答申を出せばよいのか。

（担当課） 12月議会でのパブリックコメントに間に合わせるように日程を調整する。

（2）令和6年度行政改革大綱に係る取組状況の評価について

（事務局） 【資料2～4と評価対象事業の選定の方向性について説明】

（委員長） それでは、事務局の説明のとおり、評価対象事業の選定について、5つある目指すべき方向性から各2事業以上、かつ全体で20事業以内で選んでいきたい。

また、資料4において担当課の自己評価がD、もしくはEとなっているものは、評価対象事業としたい。

（各委員） 了承。

（委員長） 自己評価がD、Eとなっている事業が方向性1に偏っているため、方向性2「歳入増につながる施策の創出・強化」から審議を始めたい。

（委員） 宿泊施設検討事業について、民泊を増やしていくべき。空き家を活用した民泊を検討するべき。

（委員長） 他に意見はあるか。

- (委 員) 生駒市スマート農業推進事業補助金について、事業の成果・評価のところに生駒市内は小規模農家が多く、スマート農業を利用する農業者がなかったとある。であれば続けていく必要がないのではないかな。
- (委員長) 別の観点だと、例えば小規模でもA I が非常に優れた技術を使って、高価値の果物等を作って販売している例もある。A I と連携する農家を生駒市でもやるべきではないか。申請がなかったから市は何もやらないというのは良くない。
他に意見はあるか。
- (委 員) ニュータウン再生・再編事業について、萩の台で一定の成果を出されているが、例えば菜畑でもここ 10 年で空き家が増えてきた。担当課の自己評価で取組方針が現状維持となっているが、拡大して萩の台以外でも空き家を活用して定住促進していくべきではないか。
- (委員長) 生駒市にとっては他の自治体と比較できないぐらい重要な課題。
方向性2については「宿泊施設検討事業」「生駒市スマート農業推進事業補助金」「ニュータウン再生・再編事業」この3つを候補として次の方向性3「ファシリティマネジメントの推進」について審議したい。
- (委 員) 生駒駅周辺都市再生（まちなかウォークアブル推進）事業について、駅周辺を整備していくことは新しい生駒、まちづくりに重要。
- (委員長) 駅前の再生は自治体にとって重要。最適な計画をどのように作っていくか。希望はあるけど景観も考えないといけない。行政は社会状況、人口の増大や様々な規制を考えないといけない。
事業の進め方や住民との協働のあり方などいくつかの視点が必要だ。また、国の補助金の活用のあり方などを見るのも大事と考える。候補に入りたい。
他に意見はあるか。
- (委 員) 管路の更新事業について 13 億円もの予算は必要か。
- (委員長) インフラは古いところから全て修繕していくと費用がかかる。例えばA I が漏水リスクを判断してくれ、そこを重点的に修繕したら費用は削減できる。
- (事務局) 管路の更新事業については上水道であるが、令和7年度から県域の一体化により企業団が所管となるため、市の事業ではない。
- (委員長) 下水道のほうはどうか。
- (事務局) 老朽化となると下水道ストックマネジメント計画策定事業。
- (委員長) 方向性3については「生駒駅周辺都市再生（まちなかウォークアブル推進）」と「下水道ストックマネジメント計画策定事業」の2つを候補としたい。
次に方向性4「多様な主体との連携・協創」について審議したい。評価がDとなっている事業が3つあるが、事務局から地域共生社会推進全国サミット in いこまについては事業が完了しているとのことで、評価対象事業から外す。残りの障がい者が安心して過ごせる居場所の確保・充実（地域活動支援センター事業の充実）と農福連携等の促進はどうか。
- (委 員) 農福連携等の促進についてDの理由として農業者等の意見を把握することはなかったとあるが。

- (事務局) 事業そのものが始まったばかりで、遊休農地を持っている方と意見交換までいかなかった。
- (委員長) 地域活動支援センター事業の充実もコスト意識がDになっているが始まったばかりか。
- (事務局) 令和6年度からの事業であり、年度当初の予定が各事業所団体のニーズ把握調査となっている。
- (委員長) では、方向性4についてはゼロから検討したい。
生活困窮自立支援事業の関係を検討したい。生活困窮者の定義は経済的に困窮している人と社会から孤立している人。行政の裁量とか姿勢というのはすごく表れてくる事業である。
- (委員) 生駒市社会福祉協議会との連携強化は市との役割分担も含めて検討してはどうか。
- (委員長) 予算が厳しくなってきた、社会福祉協議会への団体補助が事業補助のような形になってきており、チェックが厳しくなっているため、行政と社会福祉協議会の関係がギクシャクすることがある。しかし実際に色々な福祉業務をやっているのは社会福祉協議会である。生駒市ではどうなっているのか、見ておくことは重要だと考える。
方向性4は「生駒市社会福祉協議会との連携強化」と「生活困窮者の自立支援」の2つを候補としたい。
次に方向性5「機動的な組織運営に向けた仕事の進め方・働き方の改革」について審議したい。
自治体の抱えている最大の政策課題は人事管理だと思う。職員が辞めていき足元から崩壊する。人材育成と良好な職場環境づくりのための人事評価等について対象としたい。
- (委員長) 業務量増加対応任期付職員の採用試験等実施について、任期付き職員は募集しているが集まっているのか。
- (事務局) 例えば職員が育休産休で長期間離れる場合に、仕事が複雑化していることから、会計年度任用職員では賄えないため、業務経験のある事務の職員の方の採用も一貫している。
- (委員長) 人事管理上非常に重要で、生駒市の市民サービスに直結するので審議すべき。
方向性5については「人材育成と良好な職場環境づくりのための人事評価等」と「業務量増加対応任期付職員の採用試験等実施」の2つを候補としたい。
- (委員) 了承。
- (委員長) 次に、方向性1「健全かつ成長につながる行財政運営」の評価D・Eである事業を見ていきたい。
待機児童ゼロの継続について、待機児童問題はどのような状況か。
- (事務局) 19人待機児童がいる。
- (委員長) 病児保育の充実は評価が良くないが。
- (事務局) 病児保育を増やしていきたいが思うように進まなかった。民間の保育園に依頼をする立場になるので、委員会で評価をする必要があるかどうか判断が難しい。

- (委員長) 障がい者が安心して過ごせる居場所の確保・充実（地域活動支援センター事業の充実）についてはどうか。
- (事務局) 令和6年度から新たに始まった事業である。
- (委員長) 地域共生社会推進全国サミット in いこまについてはもう事業が終わっている。火災予防・救急対応力の強化についてはコスト意識の評価が低いが、分野的に委員会が評価をする必要がないと考える。
- 次が、消防本部・消防署車両更新整備事業だがこちらもコスト意識の評価が低い。
- (事務局) 入札して車両を買っている。
- (委員長) 委員会での評価は必要ないと思う。
- 農福連携等の促進については、いろいろな意見が出ていたので対象事業としてはどうか。
- 行政手続きのオンライン化はなぜ多様な主体との協創がDとなっているのか。評価理由を見ると市民を巻き込むことが大事となっている。市民をどのように巻き込んでいくかということは大事な検討課題なので、候補にした方が良いのではないか。
- A I ・ R P A等の活用による業務の効率化については進んでいるのか。
- (事務局) 一定の部署では取り入れている。
- (委員長) デジタルの活用については個人情報の問題があるので難しいが、総務省のホームページにも様々な事例が載っているので参考にしないといけない。スマートシティの観点から審議した方が良い。
- 他に意見はあるか。
- (委員) 部活動指導員の配置について先生の負担をなくすためにアウトソーシングすべきだ。
- (委員長) 全国的にはよく聞くと、生駒市では問題となっているのか。
- (事務局) 配置というより教職員の負担は問題であるが地域移行はなかなか進んでいない。
- (委員長) 生駒市は退職して力のある市民も多いので良い退職需要にもなる。議論すべきだ。
- 方向性1については「待機児童ゼロの継続」と「部活動指導員の配置」と「農福連携等の促進」と「行政手続きのオンライン化」と「A I ・ R P A等の活用による業務の効率化」。この5つを候補としたい。合計 14 候補として上がったがこれでよろしいか。
- (「はい。」との声あり)
- (委員長) 事業の数が多いので、2つの部会に分けたい。比較的近い組み合わせである方向性1と5、2と3と4を組み合わせたい。
- 1つの部会7事業ずつなので1つの事業について20分程度になる。
- (事務局) 各部会の委員については、本日欠席されている委員もいるため事務局で調整する。
- 次回部会の予定は5月16日もしくは5月28日の開催を予定している。
- 7月中には検証結果の報告書を取りまとめたい。

3 閉 会